

【工夫のポイント】

- 以前からJAが中心となり、「すし米」の契約栽培や輸出等、**先進的な取組を地域ぐるみで推進**。
- 営農に支障となるほ場の排水不良の解消に向け、**JA主導で暗渠整備を推進**（整備を希望する法人の取りまとめ、事務支援等）。
- 大手豆乳メーカーと全農が、まとまった汎用化水田が存在する当地域に着目。**豆乳用の新品種大豆「すみさやか」の契約栽培面積が急拡大し、農業の所得向上に貢献**。

【取組地域の概要】

○位置 ひがしおうみし
滋賀県東近江市

滋賀県



がもうなんぶ
蒲生南部地域

- 主要作物
・水稻、麦、大豆等
- 主な支援施策
・経営体育成基盤整備事業（S54～）
・農地耕作条件改善事業（R2～）

基盤

暗渠排水の整備による汎用化でほ場の活用可能性が向上

地元が補助事業を活用する際にハードルとなる**事務作業をJAが行う**ことで、希望する全ての集落営農法人が**暗渠排水を迅速に整備**。



暗渠排水管の敷設状況



排水不良が解消され汎用化されたほ場

基盤整備
（R2年～）

【整備前】

過去に整備された水田の**排水不良**により、高収益作物への転換等、**営農の新たな展開に支障**。



排水不良の状況

地域の取組

地域一体となった販路拡大

- 以前からJAが中心となり、「すし米」の契約栽培や輸出等の**先進的な取組を地域ぐるみで推進**。
- JAが**基盤整備の分野でも地域を主導**したことで、まとまった農地で排水改良がなされ、大豆の産地化が進んだことにより**企業との契約栽培を呼び込む**。

加工用大豆の
契約栽培ほ場



担い手

組織間連携と生産体制の強化

- **集落営農組織の法人化**や**若手農業者の組織化**を進めるとともに、研修会などを通じた組織間連携を促進し、**市場ニーズを捉えた生産体制を拡大・強化**。



現地研修会
に参加する
若手農業者

高収益作物の作付面積の拡大と所得向上

- 全農とJA、大手豆乳メーカーが連携した契約栽培を持ちかけ、**集落営農法人の栽培面積拡大**。
- 豆乳用の新品種大豆「すみさやか」の作付面積は2年で**急増し、出荷量の増（約7倍）に伴い、所得の安定向上に貢献している**。

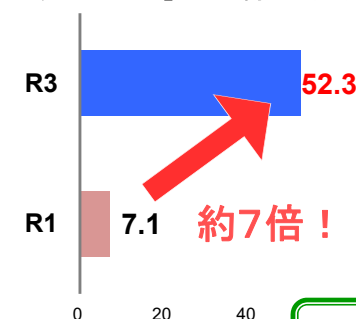


汎用化で
大豆栽培が可能に



新品種大豆
「すみさやか」

「すみさやか」の出荷量（t）



【出典：
令和3年度 JA滋賀蒲生町農談会資料】

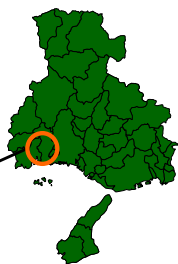
【工夫のポイント】

- ほ場整備の実施により農地の大区画化を図り、**大型機械やラジコン機械の導入**を実現。
- 農地中間管理事業を活用し、担い手へ農地を集積・集約化。**野菜団地を創設**するとともに、加工・販売、商品のブランド化を推進。
- 農業就労者の高齢化が進む中、給排水栓設備の**ICT化により水管理労力が半減**。
- 自動排水栓を用いた**スマート田んぼダム**により、降雨時における水田からの流出量を大幅に低減。**地域防災力が向上**。

【取組地域の概要】

- 位置
兵庫県たつの市

兵庫県

こんごうさん
金剛山地区

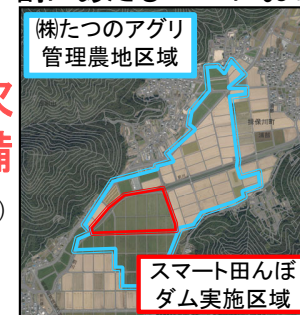
- 主要作物
・水稻、そば、小麦、トウモロコシ、大豆等
- 主な支援施策
・県営農地整備事業（経営体育成型）
(H3～H11)
・スマート田んぼダム実証事業（R3）

水管理のICT化による営農の効率化

県営ほ場整備事業により整備された95.8haの農地のうち、担い手である「(株)たつのアグリ」が管理する農地は44ha。うち2割にあたる9.4haにおいて**自動給排水栓設備を導入**。



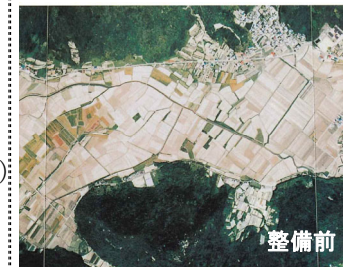
二次
整備
(R3年)



基盤
整備
(H3年～H11年)

【整備前】

ほ場は**狭小・不整形**で、効率的な農作業に支障。



整備前

大型機械等の導入による
営農の効率化・ほ場の汎用化

- 大型機械の導入やラジコンボートを用いた除草剤散布等により、**営農の効率化と品質向上、コスト削減**を実現。
- 高収益作物の**トウモロコシ栽培**や、市内食品メーカーとの**大豆等の契約栽培**を実施。



生産現場

高付加価値化と6次産業化の推進

- 栽培した大豆、米、トウモロコシの**加工・販売による6次産業化**。
- 無添加「ほっとするお味噌」は**ひょうご推奨ブランド**を取得。



加工・流通

担い手への農地集積

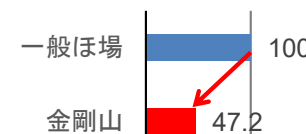
- **農地中間管理事業を活用**し、「(株)たつのアグリ」へ農地を集積・集約化。
(整備区域の約46%(44ha)を集積)



担い手

ICT機器の導入による省力化・治水効果の向上

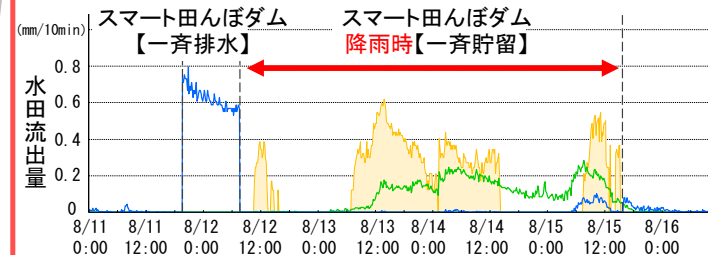
- 遠隔操作が可能なICT機器（自動給排水栓設備）の導入により、**更なる管理時間の短縮、省力化**。



管理時間が
半減！！

管理労力調査結果【一般ほ場を100としたときの作業時間】

- 遠隔操作が可能な自動排水栓を用いたスマート田んぼダムにより、**治水（貯留）効果が大幅に向上**。



一般ほ場
田んぼダム
スマート田んぼダム

降雨時の流出量が
大幅に低減！！

基盤整備を契機とした観光ぶどう園「有田巨峰村」の取組み 【和歌山県有田郡有田川町】

ありだぐんありだがわちよう

食料安保

デジ田

団体営

女性活躍

【工夫のポイント】

- ほ場整備、農業用水の確保により**ぶどうの品質向上、収量増**を実現。
- 大規模農業に対応するため、**スピードスプレー**を導入し、**共同防除**を開始。
- 消費者ニーズに応じて、市場出荷型から**観光農園型へシフト**。
- 来場者への配慮として、衛生環境が整備された結果、生産者スタッフにも優しい環境となり、**女性の参画率がアップ**。

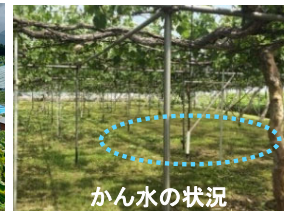
基盤

大区画化及びかんがい施設等、段階的な基盤整備

- 大区画のほ場が造成されたことで、**農業生産性が向上し、高収益作物の生産が拡大**。
- 畑地かんがい施設を整備することで**作物の品質と収量が向上**。



大区画化されたほ場



かん水の状況

基盤整備

(S49年～S61年)

【整備前】

急傾斜で不整形な農地は、農作業の省力化や高収益作物への転換に支障。



整備前の川口地区



手散布による防除

【取組地域の概要】

- 位置 ありだぐんありだがわちよう
和歌山県有田郡有田川町（過疎半島）

和歌山県



かわぐち
川口地区

- 主要作物
・ぶどう、柿 等

○ 主な支援施策

- ・ 団体営農地開発事業 (S49～S54)
- ・ 団体営かんがい排水事業 (S59～S61)
- ・ 水利施設等保全高度化事業 (R4～R8)

生産現場

生産組合の設立と共同防除の取組

- 生産組合を設立し、共同出荷施設を整備するとともに、**スピードスプレー**による**共同防除**を開始。



SSを活用した共同防除

地域の取組

消費者ニーズに応じて販売形態をシフト

- 多様化する国内外の消費者ニーズに対応するため、**体験型観光農園を展開(スタッフは8割が女性)**。また、水洗トイレ等、来場者をもてなす環境も整備。



快適なトイレ

加工・流通

「有田巨峰村」の魅力を高める6次産業化

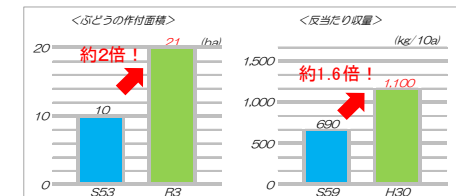
- 圧巻のロケーションを活かし、園内にカフェを開設し、**四季折々の特産品を提供**。



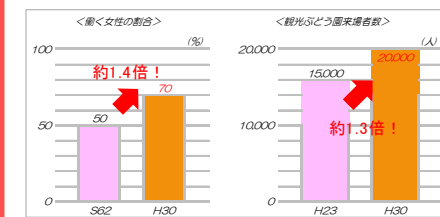
園内のぶどうを用いたデザート

基盤整備と地域の取組(ハード&ソフト)により収益力がUPし、女性が活躍

- 大区画のほ場を造成し、共同機械の導入と観光農園の取組によりぶどうの**作付面積は2倍**に、畑地かんがい施設の整備により**反当たり収量は1.6倍に増加**。(有田落葉果樹生産組合への聴き取り)



- 来園者や生産者スタッフに配慮した環境が整ったことで**女性の就業者が地区全体の70%超**に、また、**来場者数も整備前の約1.3倍**に増加。



女性の就業者が
8割以上の農園も

【工夫のポイント】

- 区画整理やかんがい施設、暗渠排水等の基盤整備により、まとまりのある営農効率の良い農地を確保。
- 農地整備の計画に合わせ、県内外からの新たな担い手の参入を推進。
- 実需者ニーズが高い高収益作物を大規模に生産することで、産地収益性を向上。

基盤

農地の大区画化と生産条件の改善

- 農地の大区画化・排水対策等の基盤整備により、実需者ニーズに対応した高収益作物の生産を実現。



基盤整備
(H26年～R3年)

【整備前】

戦後の緊急開拓事業により実施したまとまりのある農地が、担い手の高齢化、施設の老朽化等により、遊休化。

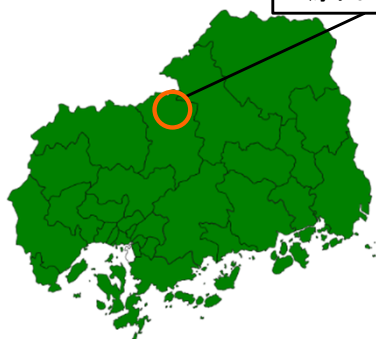


【取組地域の概要】

- 位置 あきたかたし
広島県安芸高田市

広島県

はらやま
原山地区



- 主要作物
・キャベツ、レタス 等

- 主な支援施策
・農業競争力強化農地整備事業
(経営体育成型) (H26～R3)

生産現場

労働生産性の向上

- まとまった農地を確保し、区画整理や排水対策等を実施することで、担い手が求める営農効率の良い農地を確保。
集積率 31% ⇒ 92%



担い手

持続的な地域雇用の創出

- 新たな担い手として企業が参加することにより、地域雇用を創出。
- 地元高校から新卒採用を行い、担い手を確保するとともに、地域の方をパートタイムで雇用。



レタスの収穫状況

加工・流通

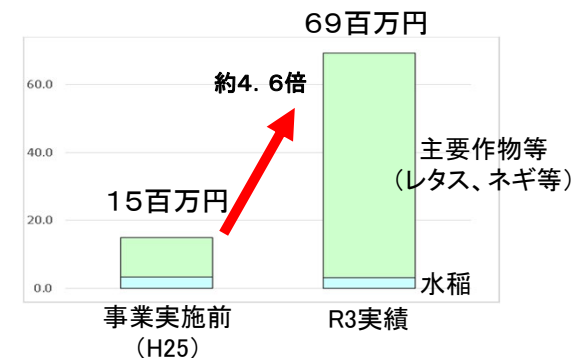
流通ノウハウの活用と出荷コストの縮減

- 新たな担い手(企業)が持つ独自の販路を活用することで、収穫から流通における省力化及び収益性の向上を実現。



基盤整備と地域の取組が一体となった収益力の向上

- 営農効率の良いまとまった農地を確保することで、県内外からの新たな担い手(参入企業)への集積が進み、農業生産額が増加。



- 新規参入企業による地域雇用の創出など、事業をきっかけとして地域が活性化。



【工夫のポイント】

- 大区画化、汎用化により、営農効率の良いほ場が整備され、**担い手への農地集積・集約化を促進**。
- 事業を契機に、担い手となる**農事組合法人**を設立。(平成25年)
- 米や小麦といった土地利用型作物と併せて、**たまねぎやキャベツなどの高収益作物を導入し、多様な作物生産による収益性の向上を実現**。

【取組地域の概要】

- 位置 ほうふし
山口県防府市

山口県



しもつりょう
下津令地区

- 主要作物
・水稻、小麦、たまねぎ、キャベツ 等
- 主な支援施策
・農業競争力強化農地整備事業(H23～R3)
・多面的機能支払交付金(H19～)

基盤

ほ場整備による営農の効率化

区画整理による基盤の嵩上げ、用排水路の分離、地下水位制御システムの導入、用水のパイプライン化等により、**ほ場の排水性の改良や農作業の効率化**が図られ、法人による**畑作物の生産が拡大**。



高収益作物栽培(キャベツ)



地下水位制御システム

基盤整備
(H23年～R3年)

【整備前】

不整形で狭小な農地であり、地区北側の河川は水位が高く、**洪水時の排水が困難**になることから、**水稻主体の個別営農**。



降雨時湛水状況(整備前)



整備前全景

生産現場

農事組合法人による営農体系の確立

- 地域の豊かな農業を守っていくため「**農事組合法人下津領**」を設立。
- 水稻主体の営農から、**小麦、たまねぎ、キャベツ等の作物の栽培へ転換**。
- キャベツの生産は、**女性理事**が担っており、調整作業等では地域へ貢献するために**地元の方を雇用**。



タマネギ収穫



キャベツの出荷調整

地域の取組

集落営農法人連合体の設立

- 集落営農法人の構成員の高齢化等に対応し、地域農業の持続的発展を目指すため、防府市大道地域の3集落営農法人と認定農業者が共同出資して**株式会社(集落営農法人連合体)**を設立。
- 連合体では、ドローンを活用した農薬散布や資材の共同購入、機械共同利用による**各法人のコスト縮減**や、**人材育成へ取り組む**。



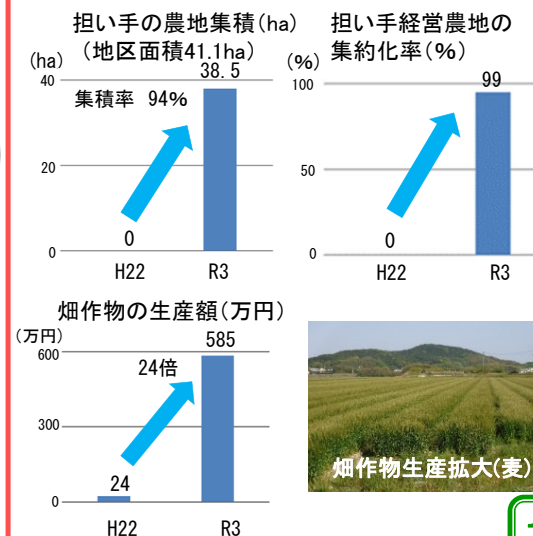
ドローンによる農薬散布



共同利用機械(麦播種)

区画整理による農地集積と畑作物の生産拡大

- ほ場整備と、それを契機に設立された集落営農法人による営農を進めることで、**担い手への農地集積・集約化の促進**や**畑作物の生産額向上**が図られた。



【工夫のポイント】

- 地域農業の競争力強化を図るため、区画整理等によりスマート農業導入のための基盤を整備。
- 施設園芸企業を誘致し、スマート農業による実証と普及拠点となる高度環境制御型園芸ハウスを整備。
- 産官学連携による次世代人材育成を実施。

【取組地域の概要】

- 位置 あわし
徳島県阿波市



- 主要作物
・レタス、白ナス、ミニトマト等
- 主な支援施策
・農地耕作条件改善事業(R1)
・強い農業・担い手づくり総合支援交付金(R1~R2)
・県営土地改良総合整備事業(H8~H10)
・国営かんがい排水事業(S46~H元)

基盤

基盤整備の実施と吉野川北岸用水の利用による 高度環境制御型園芸ハウスの導入

区画拡大と排水改良、水質の良い用水の安定確保により、施設園芸の導入が可能となり、高収益作物の品質・収量が向上。



用水
利用



基盤整備
(R1年)

【整備前】

区画が狭小、農地に段差があったことから、広がりのある基盤の整備が必要。



生産現場

高度環境制御型園芸ハウスの導入

- 高収益トマト生産モデルの実証と普及拠点として、企業が高度環境制御型園芸ハウスを整備。



加工・流通

農産物の高付加価値化(国産)の取組

- 業務用途のトマトは海外からの輸入が大半を占める中、国内大手コンビニチェーンやハンバーガーチェーンなどと取引のある商社への契約出荷を増進。



人材育成と地域貢献

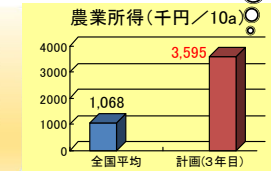
- 次世代を担う人材育成に向け、県、市、徳島大学、参入企業等が連携協定を締結。
- 農業を魅力ある職業にすべく、市内小学生の見学を受け入れ、新しい農業の姿として紹介。



スマート農業を活用した 地域農業モデルの推進

- 担い手に農地を集積・集約するとともに、スマート農業技術の導入により生産性を向上。輸入品から国内生産へシフト。

全国平均の
3倍以上を
目標



- 県内農家を対象とした「施設園芸アカデミー」の開講により次世代の人材を育成。



- 現地採用として20名を雇用。役員2名は会社設立のため移住。

